

第12期 期末報告書

2007.10.1-2008.9.30

dwango

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますます
ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼
申し上げます。

第12期(2007年10月から2008年9月ま
で)における業績の概況についてご報告
いたします。



代表取締役社長
小林 宏

当連結会計年度におきましては、モバイル事業において会員数が順調に推移し予想を上回る売上を達成したことや、ポータル事業がスタートしたことなどにより、売上高は249億78百万円(前期比12.2%増)となりました。しかしながら、ゲーム事業において全般的な販売計画本数の未達、ポータル事業*においてはプレミアム会員数の計画未達により会社計画を下回る結果となりました。費用面では、着うた®・着うたフル®の利用増加により著作権使用料が増加したものの、外注費や広告宣伝費、研究開発費などを圧縮した結果、営業利益は1億15百万円(前期比68.6%減)、経常利益は1億7百万円(前期比66.1%減)となりました。

しかしながら、特別損失として投資有価証券の評価損や繰延税金資産の取崩しを行ったため、22億98百万円の当期純損失(前期は14億8百万円の損失)となりました。

昨年より本格的なサービスを開始した「ニコニコ動画」は、順調に登録会員数を伸ばし、9月末には今期の目標会員数900万人を突破、11月には1,000万人を超え、国内トップクラスのネットコミュニティサービスとなるとともに、メディアとしての認知度も向上しており、事業を取り巻く環境が大幅に変化してきております。

前期は、利用者増加が最重要課題でしたが、今期は、収益化と一般化が命題であります。収益化につきましては、既に今期よりスタートしております広告販売について、10月より大幅に拡大し、ナショナルクライアントからの出稿も増加し

てきております。また、9月まで横ばいだったプレミアム会員数（有料会員）も様々なテコ入れが功を奏し、10月には約6,000人増、11月には約18,000人増となっているなど、ビジネストレンドが明らかに変化してきております。また、10月15日より新たな収益手段として、ポイントシステムを開始いたしました。今後、ポイントを利用したサービスを順次投入してまいります。

一方、一般化につきましては「公式チャンネル」を開始し、性別、年齢に拘らない様々なユーザの趣味・嗜好に対応するコンテンツの充実を進めております。これにより、今後、女性ユーザや30代以上のユーザの拡大を図ってまいります。

また、「ニコニコ動画」のモバイル対応につきましては、11月にソフトバンクの公式課金を開始したことにより、3キャリア

ア全てで利用できるようになりました。

このように「ニコニコ動画」は、拡大成長を続けており、2009年9月期中には、単月での黒字化を目指しております。

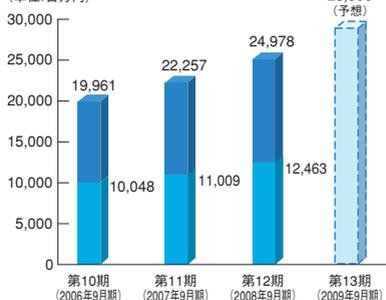
当社グループでは、モバイルコンテンツビジネス及び「ニコニコ動画」を中心に、様々なエンタテインメント系サービスを提供し続けることにより、今までにないビジネスチャンスの創出に努め、これにより総合エンタテインメントポータル化を目指してまいります。

株主の皆様には何卒ご理解のうえご支援賜りますようお願い申し上げます。

*当連結会計年度よりセグメント区分を変更し「ポータル事業」を新設いたしました。

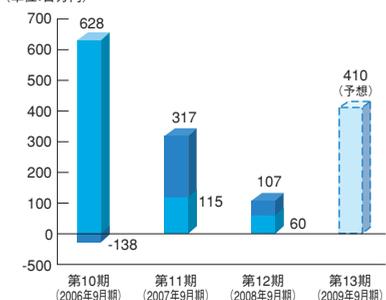
● 連結売上高

(単位:百万円)



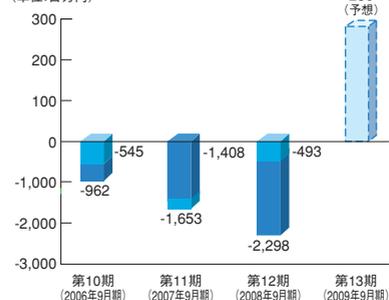
● 連結経常利益

(単位:百万円)



● 連結当期純利益

(単位:百万円)





セグメント別業績概況（連結）

当連結会計年度よりセグメント区分を見直し、前連結会計年度において「その他事業」に含めておりました事業を「ポータル事業」として区分し、前連結会計年度までの「ソリューション事業」は、「その他事業」に含めております。また、前連結会計年度の数値は変更後のセグメント区分に組み替えて算出しております。

》》》 モバイル事業

モバイル事業におきましては、携帯端末の高性能化・高速データ通信の実現などに伴い、着うたフル®や動画などのリッチコンテンツの需要がますます高まってきております。

当社グループにおきましては、引き続き人気楽曲の先行配信などを行うための権利獲得に注力してまいりました。また、新曲との連動企画、効果的なプロモーションによる会員入会導線の見直しなど、様々な施策を積極的に実施したことにより、着うたフル®サイトについては会員数が増加いたしました。他サイトでは、当社としては初となる本格的な洋楽専門着うた®サイト「ビルボード公式」や着うたフル®サイト「ビルボード公式フル」、音楽系以外では、ゲーム系サイトで、アイテム課金型の育成アドベンチャーゲーム「インストールメアリー」やオンラインRPG「悠久の騎士団 ONLINE」、待受画像系サイトでは、人気TVアニメと連携した「To

LOVEる-とらぶる-」など、市場のニーズが高いものから新しいサービスまで、多様なニーズにいち早く対応してまいりました。

また、広告宣伝費を効果の高いものに絞り込み、外注費などの圧縮を積極的に行ったことなど、経費の削減に努めてまいりました。

これらの取り組みにより、当連結会計年度末の有料ユニークユーザ数※1は385万人（前期比24万8千人増）、ARPU※2は383円（同7円増）となりました。ARPUにつきましては、着うた®、着うたフル®などの高単価コンテンツを配信するサイトの会員数が増加したことによるものです。

モバイル事業の売上高は168億1百万円（前期比10.4%増）、営業利益は34億4百万円（同61.7%増）となりました。

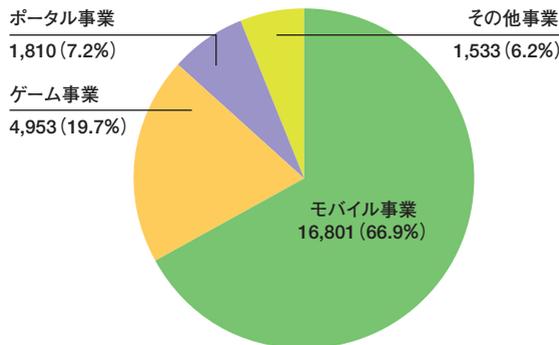
● ユニークユーザ数とARPUの推移



※1 有料ユニークユーザ数とは、ユーザIDに基づきカウントする有料ユーザ数。延べ会員数ではなく、同一ユーザが複数サイトへ加入している場合にも1人としてカウント。

※2 ARPU (Average Revenue Per User) とは、ユーザ1人当たりの月間売上高のこと。同一ユーザの複数サイトへの加入状況を把握することで算出が可能。顧客単価と同義。

● セグメント別売上高(単位:百万円)



》》》 ゲーム事業

ゲーム事業におきましては、前連結会計年度に株式会社ポケモンと共同開発いたしましたゲームソフト「ポケモン不思議のダンジョン」シリーズの海外及び国内における追加販売、また、「ご当地検定」、「脳内エステ IQサプリDS」や、海外タイトルである「Call of Duty 3」、「The Elder ScrollsⅣ：オブリビオン」などを国内向けに販売しており、これらが売上に寄与しましたが、他タイトルの販売計画本数が一般的に未達となりました。

ネットワークゲームにつきましては「アミーゴ・アミーガ」について、

サービス開始から1年が経過し、運営が軌道に乗っているものの、事業環境の大幅な変化に伴い、計画値との乖離が生じていることなどにより、収益モデルの見直しが必要であると判断し、運営主体である有限責任事業組合(LLP)を本年4月に解散・清算をいたしました。なお、同サービスにつきましては、株式会社ゲームズアリーナに営業権を譲渡し、サービスを継続しております。

以上の結果、ゲーム事業の売上高は49億53百万円(前期比19.1%減)、営業利益は7億19百万円(同43.8%減)となりました。

》》》 ポータル事業 携帯電話やPCのメール・WEBなどを利用した各種情報・付帯広告の配信、動画投稿共有サイトの運営を行う事業

ポータル事業におきましては、「ニコニコ動画」が順調に登録会員数を伸ばしております。

本年7月には新しいバージョンである「ニコニコ動画(夏)」のサービスを開始し、メディアとしての認知度向上や、ユーザー間におけるコミュニティ形成などを目的に、一層のサービス強化に努めてまいりました。(その後、10月に「ニコニコ動画(秋)」をスタート)

現状の収益の柱は、様々な特典が受けられる有料サービス「ニコニコプレミアム会員」(2008年9月末会員数約20万人)からの

収入、広告収入、アフィリエイト収入となっており、それぞれ売上に貢献しておりますが、登録会員数の増加に伴う設備投資や回線費用の増加及び、2009年9月期からのポイントシステムを利用した、動画を投稿・視聴する以外の新しいエンタテインメントサービスや、魅力ある広告商品の企画開発など、本格的な収益化に向けての先行投資などにより、未だ収益への貢献には至っておりません。

以上の結果、ポータル事業の売上高は18億10百万円、営業損失は15億15百万円となりました。

》》》 その他事業

その他事業におきましては、アニメーション番組などへの出資による利益分配金や音楽出版、ゲームソフト攻略本によるロイヤリティ収入などがそれぞれ売上に貢献しております。しかしながら、アニメ関連事業など、事業立ち上げに伴い一部費用が先

行していることなどにより、その他事業の売上高は15億33百万円(前期比59.3%増)、営業損失は44百万円(前期は1億23百万円の損失)となりました。

特集1: ニコニコ動画の今

躍進を続けるネット上のコミュニティサービス「ニコニコ動画」

「ニコニコ動画」は、サービス開始から約1年8ヶ月でID登録者数1,000万人を突破した、急成長を続けるネット上のコミュニティサービスです。「ニコニコ動画」では、インターネット上で再生される動画に対し、リアルタイムでコメントを付けることができ、書き込まれたコメントは動画の再生時間に応じて右から左へと流れるかたちで表示されます。

コメントが書き込まれた動画は再生時間軸に紐づいて再生され、視聴しているユーザは、まるで他のユーザと一緒に動画を見ているような感覚(当社では「非同期」と呼んでいます)を味わうことができます。さらに、「ニコニコ動画」から生まれたサブカルチャーはネットの世界のみにとどまらず、リアルな世界にも影響を与え続けています。

「ネットに生まれて、ネットでつながる。」という当社の経営理念のもと、「ニコニコ動画」はさらなる進化を続けます。

PC : <http://www.nicovideo.jp>

携帯電話 : <http://m.nicovideo.jp>



収益多様化に向けた取り組み: 新規サービスの開始

「ニコニコ動画」は、動画を快適に視聴できる「ニコニコプレミアム会員」、ウェブサイト上のバナーや動画上に表示される「広告」、動画に関連する商品を貼り付け、購入できる「ニコニコ市場」の3つのビジネスモデルに加え、10月よりスタートした広告枠拡大・単価アップ及びポイントシステムの導入が、「ニコニコ動画」の収益化に大きく貢献し、当社グループにおいて大きな収益の柱となることを目指しております。

サービス開始からの受賞履歴

「ニコニコ動画」はサービス開始以来、様々な賞を受賞しており、世界でも日本発・初のサービスとして認知されつつあります。

アルス・エレクトロニカ
デジタルコミュニティ部門「Honorary Mentions」
2008年6月18日 受賞

MM総研大賞2008
話題賞
2008年6月12日 受賞

TechVenture2008
2008年2月20日 受賞

日本オタク大賞2007
大賞
2008年1月22日 受賞

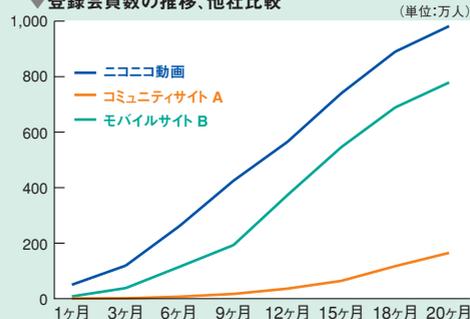
Web of the Year 2007
ネットレイティングス賞 / 動画・音楽部門 2位
2007年12月21日 受賞

All About 話題 of the Year 2007
「趣味・エンタメ」部門賞 2位
2007年12月21日 受賞

第4回 日本ブロードバンドビジネス大賞
大賞
2007年11月14日 受賞

2007年度 グッドデザイン賞
コミュニケーションデザイン部門
2007年10月1日 受賞

登録会員数の推移、他社比較



著作権侵害動画に対する対応策の状況

2008年4月1日のJASRAC（社団法人日本音楽著作権協会）との管理楽曲の許諾に関わる契約締結に続き、有限責任中間法人日本動画協会、社団法人日本映像ソフト協会、社団法人日本映画製作者連盟との同意・確認の申し入れ書の受領を同年7月2日に、「株式会社イーライセンス」との許諾に関わる契約を同年9月1日に締結いたしました。また、ライセンス・コントロール・プログラム（権利者がニコニコ動画における著作物の使用状況をコントロールできる）を導入する予定で、権利者が安心して「ニコニコ

動画」を利用できるようにいたします。また、投稿される動画に対する権利保護を目的として権利保護システムや監視体制の強化及び利用者への啓蒙活動を引き続き行います。加えて、様々な企業との事業交渉を積極的に推し進めてまいります。

今後もコンテンツホルダー及び諸団体・協会との協議を進めながら権利保護の取り組みを強化し、著作権侵害問題に適切に対処してまいります。

ニコニ・コモンズ



「ニコニ・コモンズ」では、クリエイター（著作権者）が作品の権利の一部を開放し、これを明示することで、自己の作品を広めたり、他のクリエイターによる新たな創作活動を支援する仕組みを作ります。コンセプトは「公式黙認」。「ニコニ・コモンズ」は、クリエイター同士の交流とコラボレーションの場を提供すること、安心して二次創作活動が行える場を提供すること、作品の利用を促進する場を提供することを目的としています。

マイクロソフトの個人ユーザ向けサービスである Windows Live の機能が、「ニコニコ動画」に導入され、ユーザの利便性及び楽しさが広がりました。「ニコニコ動画」を友人とプライベートで楽しめる「ニコニコメッセ」、「ニコニコ動画」からの情報をタイムリーに受け取ることができる「ニコニコアラート」、「ニコニコ動画」人気のキャラクターをあしらったアイコンなどがダウンロードできる「ニコニコメッセ絵文字」の3つの機能で、さらに楽しい「ニコニコ動画」になりました。

マイクロソフト株式会社
次世代ウェブ
コミュニケーションで連携

Microsoft

「ニコニコ動画モバイル」 がソフトバンクの携帯電話 に対応

「ニコニコ動画」
(<http://www.nicovideo.jp>)の携帯電話向けサービス「ニコニコ動画モバイル」が、ソフトバンクの携帯電話に対応し、オフィシャルコンテンツとして11月4日より提供を開始いたしました。



特集2: ニコニコ動画の今後の展開

一般化と収益化に向けた取り組み

サービス開始から順調に会員数を伸ばし続けている「ニコニコ動画」は、日本国内の動画投稿共有サービスの中でもトップクラスの会員数を誇ります。また、PC上の新たなメディアとして確実に認知されつつあります。今後は、「ニコニコ動画」の

「一般化」及び「収益化」に取り組み、ネット上のライフツールとなり得る「メディア」を目指します。

一般化に向けた取り組み

現在のメインユーザは10代及び20代が大半を占めておりますが、来期は幅広い年代層の会員獲得に向け、「ニコニコ動画」の一般化を図り、全ユーザが気軽に楽しむことができる「ニコニコ動画」を目指します。

ニコニココミュニティの開設

「ニコニコ動画」のPC向けサイト内で展開されるコミュニティ機能です。設定されたコミュニティに参加しているユーザ間でのみ、動画の投稿、閲覧、コメントができるようになります。

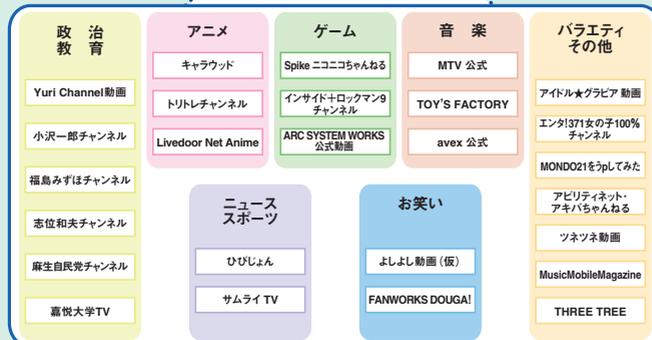
これまで「ニコニコ動画」では、投稿した動画は全ユーザに対して公開されていましたが、「ニコニココミュニティ」を設定することで、家族や親戚、友人やサークル、会社内などの限定したユーザ間で動画を閲覧しコメントすることができるので、動画を通じて、よりいっそう幅広いコミュニケーションのスタイルを作っていくことが可能になります。

公式チャンネルの開始

これまでの公式チャンネルに加え、さらにバラエティに富んだカテゴリで展開いたします。ニュース、スポーツ、音楽、お笑い、ゲーム、バラエティ、アニメ、政治、言語といった豊富なラインナップで様々なチャンネルを開設し、「ニコニコ動画」を訪問する全ての人が気軽に楽しめるコンテンツを提供いたします。(10月末現在26チャンネル)



公式チャンネル



収益化に向けた取り組み ① 広告収入

バナー広告やニコ割に加え、ローテーションバナーなどの新規広告枠を追加いたします。「ニコニコ動画」内の広告枠数を既存の約3.5倍と大幅に増加し、単価アップを実施いたします。「ニコニコ動画」の特徴である長い滞在時間を利用することによりクライアントにとって効果的な広告商品を販売し、広告収入を拡大いたします。

各ページの広告スペース

6

1

2

3

4

5

7

7

8

9

TOPページ

動画閲覧ページ

検索結果ページ

各広告スペース

▼ 広告売上高の推移

期間	出稿数 (件)	広告売上高 (千円)
11期3Q	50	0
11期4Q	130	40,000
12期1Q	180	70,000
12期2Q	240	100,000
12期3Q	280	130,000
12期4Q	290	140,000
2008/10	150	60,000

広告メニュー

- 1 Topページバナー
- 2 Topページブランディングバナー
- 3 MEGAテキストバナー
- 4 ローテーションバナー
- 5 ニコスボ
- 6 うねうね
- 7 かくれんぼ
- 8 うえ(ニコニコ大百科)
- 9 よこ(ニコニコ大百科)



特集2: ニコニコ動画の今後の展開

収益化に向けた取り組み ② ニコニコプレミアム会員

有料会員向けのサービス拡充を図ります。これまで先着順で入場可能であった生放送への優先入場など、有料会員ならではのサービスを投入します。無料会員との差別化をこれまで以上に図ることにより有料会員入会へ誘導し、収益化につなげます。

●有料サービス(ニコニコプレミアム会員)

有料会員専用サーバを利用した快適で高画質な通信環境、その他様々なオプション機能を提供。

課金コース:月額課金(525円:税込)、90日チケット(1,680円:税込)

収益化に向けた取り組み ③ ポイントシステム(課金サービス)

「ニコニコ動画」内のゲームやコミュニティ、人気美少女ゲームの3D生活空間「ai sp@ce」や「ニコニコ動画モバイル」などで使用可能なポイントシステムを導入しました。

- ポイント購入単位 1,000~5,000ポイント
1,050~5,250円(税込)

- 支払方法
 - ①クレジットカード
 - ②WebMoney
 - ③ドコモケータイ払い



ニコニコ動画モバイル
NICO NICO MOBILE



ai space
アイスペース



©ai sp@ce 製作委員会



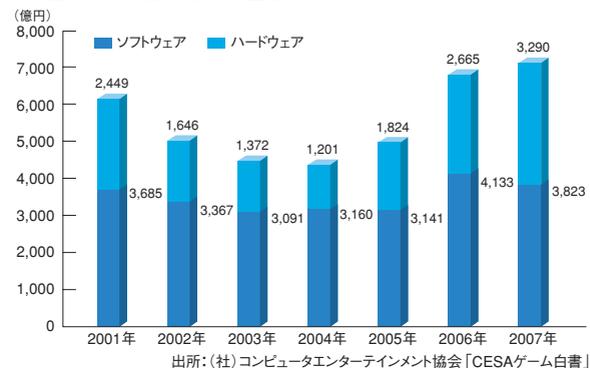
特集3: ゲーム事業について

ゲーム市場

ゲーム市場につきましては、2004年発売の「ニンテンドーDS」や「プレイステーション・ポータブル(PSP)」、その後継機種が幅広い層に受け入れられ、市場が活性化しました。また、2006年の発売開始から2008年1月には国内累計販売台数500万台、世界累計では2,000万台を突破した「Wii」や「プレイステーション3」など最新の据え置き型ゲーム機の発売も加速の要因となりました。

さらに、これらゲーム機向けの幅広いジャンル、豊富な種類のソフト販売により、市場は拡大しています。無線通信によるユーザ同士の交流専用のカフェや、ネット環境を利用したゲームコンテンツの販売、コミュニティ機能により、さらなる成長が見込まれています。

■家庭用ゲーム国内総出荷金額



ゲーム・パッケージ紹介

■開発元: 株式会社チュンソフト

2008年12月発売予定 Wii用

「428 ～封鎖された渋谷で～」
サウンドノベルシリーズ待望の最新作!
封鎖された街・渋谷、極限状態で迫られる「選択」……



2008日本ゲーム大賞
フューチャー賞を受賞
(発売元: 株式会社セガ)

■開発元: 株式会社ポケモン・株式会社チュンソフト

2007年9月発売 NINTENDO DS用

「ポケモン不思議のダンジョン
時の探検隊・闇の探検隊」
ポケモンの世界で大冒険!



2008日本ゲーム大賞
優秀賞を受賞
(販売元: 任天堂株式会社/
発売元: 株式会社ポケモン)

■販売元: 株式会社スパイク

2008年11月発売 PLAYSTATION3用

「侍道3」
侍が最も活躍し、合戦の中に散っていった
戦国時代が舞台!



(開発元: アクワイア)

■販売元: 株式会社スパイク

2008年12月発売予定 Xbox360®用

「BIOSHOCK」
リアルなグラフィック、繊細で緻密な
ストーリーと世界観。秀逸アクション・
シューター、堂々日本上陸!



(開発元: 2K Marin)

© 2008 CHUNSOFT © 2007 Pokémon. © 1995-2007 Nintendo/Creatures Inc. /GAME FREAK inc. © 1993-2007 CHUNSOFT © 2008 Spike/ACQUIRE © 2002-2008 Take-Two Interactive Software and its subsidiaries. Developed by 2K Boston and 2K Australia. Bioshock, 2K Games, 2K Boston, 2K Australia, the 2K logo, the 2K Boston logo, 2K Australia logo, and Take-Two Interactive Software are all trademarks and/or registered trademarks of Take-Two Interactive Software, Inc. in the USA and/or foreign countries.

※「PLAYSTATION3」及び「プレイステーション3」は株式会社ソニー・エンターテインメントの登録商標です。 ※「NINTENDO DS」及び「ニンテンドーDS」、「Wii」は任天堂株式会社の登録商標です。 ※「Xbox360」はマイクロソフト株式会社の登録商標です。 ※ポケモン・Pokémonは任天堂・クリエーターズ・ゲームフリークの登録商標です。 ※「不思議のダンジョン」はチュンソフトの登録商標です。 ※各社の社名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。



連結財務諸表(要旨)

● 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期 (2008年9月30日現在)	前期 (2007年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	17,575,354	19,068,559
現金及び預金	7,215,802	4,726,722
受取手形及び売掛金	4,989,165	5,457,324
有価証券	4,458,903	7,451,863
たな卸資産	195,944	71,937
繰延税金資産	82,227	556,131
その他	633,311	804,578
固定資産	5,040,067	6,448,033
有形固定資産	1,470,943	1,329,096
建物及び構築物	275,243	295,636
工具器具備品	1,193,184	1,033,010
その他	2,515	449
無形固定資産	774,132	1,015,291
投資その他の資産	2,794,990	4,103,646
投資有価証券	2,145,414	2,804,330
繰延税金資産	132,615	748,032
その他	516,960	551,283
資産合計	22,615,422	25,516,592

科目	当期 (2008年9月30日現在)	前期 (2007年9月30日現在)
(負債の部)		
流動負債	4,985,097	5,200,549
支払手形及び買掛金	1,510,387	1,779,122
短期借入金	900,000	500,000
1年以内返済予定長期借入金	—	25,842
1年以内償還予定社債	—	30,000
未払金	1,366,002	1,378,846
未払法人税等	152,524	253,772
賞与引当金	335,047	270,632
返品調整引当金	35,632	58,583
その他	685,502	903,750
固定負債	2,284	34,387
長期借入金	—	33,715
その他	2,284	672
負債合計	4,987,382	5,234,936
(純資産の部)		
株主資本	16,976,763	19,646,657
資本金	10,070,222	10,058,642
資本剰余金	10,170,308	11,709,165
利益剰余金	△3,263,768	△570,713
自己株式	—	△1,550,437
評価・換算差額等	△5,565	△86,966
少数株主持分	656,841	721,964
純資産合計	17,628,039	20,281,656
負債純資産合計	22,615,422	25,516,592

● 連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	(自 2007年10月1日 至 2008年9月30日)	(自 2006年10月1日 至 2007年9月30日)
売上高	24,978,372	22,257,235
売上原価	14,232,001	11,044,702
売上総利益	10,746,370	11,212,533
販売費及び一般管理費	10,630,872	10,844,273
営業利益	115,498	368,260
営業外収益	73,662	70,714
営業外費用	81,376	121,110
経常利益	107,783	317,864
特別利益	1,908	780,796
特別損失	1,139,868	2,024,043
税金等調整前当期純損失 (△)	△1,030,176	△925,383
法人税、住民税及び事業税	382,581	341,176
法人税等調整額	1,029,110	△147,466
少数株主利益又は損失	△143,388	289,524
当期純損失 (△)	△2,298,480	△1,408,618

● 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当期	前期
	(自 2007年10月1日 至 2008年9月30日)	(自 2006年10月1日 至 2007年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,176,491	1,224,085
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,659,719	△462,906
財務活動によるキャッシュ・フロー	83,052	△79,365
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,005	81
現金及び現金同等物の増減額	△402,180	681,894
現金及び現金同等物の期首残高	12,076,886	11,386,110
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	8,881
現金及び現金同等物の期末残高	11,674,706	12,076,886

● 連結株主資本等変動計算書

(自 2007年10月1日 至 2008年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年9月30日残高	10,058,642	11,709,165	△570,713	△1,550,437	19,646,657	△88,362	1,396	△86,966	721,964	20,281,656
連結会計年度中の変動額										
新株の発行	11,580	11,580			23,160					23,160
剰余金の配当			△394,574		△394,574					△394,574
当期純損失			△2,298,480		△2,298,480					△2,298,480
自己株式の消却		△1,550,437		1,550,437	—					
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						82,191	△790	81,400	△65,122	16,278
連結会計年度中の変動額合計	11,580	△1,538,857	△2,693,054	1,550,437	△2,669,894	82,191	△790	81,400	△65,122	△2,653,616
2008年9月30日残高	10,070,222	10,170,308	△3,263,768	—	16,976,763	△6,170	605	△5,565	656,841	17,628,039

単体財務諸表(要旨)

● 単体貸借対照表

(単位：千円)

科目	当期 (2008年9月30日現在)	前期 (2007年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	15,378,743	16,104,184
固定資産	6,588,571	8,073,447
資産合計	21,967,315	24,177,632
(負債の部)		
流動負債	3,543,961	3,347,819
負債合計	3,543,961	3,347,819
(純資産の部)		
株主資本	18,429,301	20,918,049
資本金	10,070,222	10,058,642
資本剰余金	10,170,308	11,709,165
利益剰余金	△1,811,229	700,678
自己株式	—	△1,550,437
評価・換算差額等	△5,947	△88,236
純資産合計	18,423,353	20,829,813
負債純資産合計	21,967,315	24,177,632

● 単体損益計算書

(単位：千円)

科目	当期 (自 2007年10月1日 至 2008年9月30日)	前期 (自 2006年10月1日 至 2007年9月30日)
売上高	18,705,886	15,485,930
売上原価	11,667,660	8,528,856
売上総利益	7,038,225	6,957,074
販売費及び一般管理費	7,005,671	7,445,876
営業利益又は損失	32,554	△488,802
営業外収益	79,451	78,260
営業外費用	19,943	17,536
経常利益又は損失	92,062	△428,077
特別利益	—	766,354
特別損失	1,313,348	2,018,786
税引前当期純損失 (△)	△1,221,286	△1,680,509
法人税、住民税及び事業税	11,514	61,744
法人税等調整額	884,533	4,921
当期純損失 (△)	△2,117,334	△1,747,175

● 単体株主資本等変動計算書 (自 2007年10月1日 至 2008年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本							評価・換算差額等		純資産 合計		
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本 合計		その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計					
2007年9月30日残高	10,058,642	11,709,165	—	11,709,165	15,903	684,774	700,678	△1,550,437	20,918,049	△88,236	△88,236	20,829,813
事業年度中の変動額												
新株の発行	11,580	11,580	—	11,580					23,160			23,160
資本準備金の取崩		△9,100,000	9,100,000									
剰余金の配当						△394,574	△394,574		△394,574			△394,574
当期純損失						△2,117,334	△2,117,334		△2,117,334			△2,117,334
自己株式の消却			△1,550,437	△1,550,437				1,550,437				
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)										82,288	82,288	82,288
事業年度中の変動額合計	11,580	△9,088,420	7,549,563	△1,538,857	—	△2,511,908	△2,511,908	1,550,437	△2,488,748	82,288	82,288	△2,406,459
2008年9月30日残高	10,070,222	2,620,745	7,549,563	10,170,308	15,903	△1,827,133	△1,811,229	—	18,429,301	△5,947	△5,947	18,423,353



株式の状況／会社概要

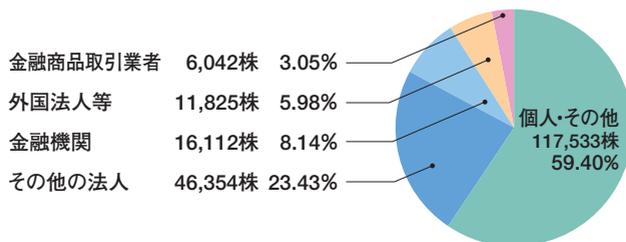
■株式の状況 (2008年9月30日現在)

発行可能株式総数	528,000株
発行済株式総数	197,866株
株主数	15,434名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社	40,900	20.67
川上 量生	36,395	18.39
森 栄樹	10,100	5.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,826	2.43
太田 豊紀	4,750	2.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口 4G)	3,318	1.67
有限会社パーセント	3,315	1.67
バンクオブニューヨーク・シーエムクライアントアカウント ジェイピーアールディアイエスジーエフイーエイシー	3,168	1.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,981	1.50
小林 宏	1,960	0.99

所有者別株式数比率



■会社概要 (2008年9月30日現在)

設立年月日 1997年8月6日
 本社所在地 〒103-0007
 東京都中央区日本橋浜町2-31-1
 浜町センタービル
 資本金 100億7,022万円
 従業員数 単体 403名 連結 709名
 事業内容 次世代ネットワークエンタテインメントを対象としたコンテンツ及びシステムの企画、開発、運用、サポート、コンサルティング

役員 (2008年12月25日現在)
 代表取締役会長 川上 量生
 代表取締役社長 小林 宏
 取締役副社長 太田 豊紀
 取締役 松本 康一郎
 取締役 夏野 剛
 取締役 麻生 巖
 取締役 荒木 隆司
 監査役(常勤) 小池 哲
 監査役 佐藤 辰男
 監査役 鈴木 祐一
 監査役 永野 明

子会社
 株式会社ドワンゴ・ミュージックパブリッシング
 株式会社ドワンゴプランニングアンドディベロップメント
 株式会社ドワンゴ・エージェンシー・エンタテインメント
 株式会社ニワンゴ
 株式会社モバイルコンテンツ
 株式会社スカイスクレイパー
 株式会社ゲームズアリーナ
 株式会社チュンソフト
 株式会社スパイク
 株式会社ティーアンドイーソフト
 株式会社Realize Records
 多玩國股份有限公司(台湾 台北市)
 株式会社AG-ONE
 株式会社魔法のいらんど

関連会社

株主メモ

事業年度 10月1日～翌年9月30日

定時株主総会 毎年12月

期末配当基準日 9月30日

その他必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。

公告方法 当社のホームページに掲載します。

URL <http://info.dwango.co.jp/ir/>

なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない時は、日本経済新聞に掲載して行うものとします。

証券コード 3715

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

TEL:0120-232-711 (通話料無料)

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

(ご注意) 株主名簿管理人の「取次所」の定めについて
株券電子化後、株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。

なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続き用紙のご請求について】

株式に関するお手続き用紙(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書等)のご請求につきましては、以下のお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。なお、株券電子化実施後は、特別口座に登録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。

☎0120-244-479(通話料無料)

インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

上場取引所 東京証券取引所

【株券電子化後の株式に関するお届出先及びご照会先について】

2009年1月5日に株券電子化が実施されます。その後のご住所変更等のお届出及びご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の三菱UFJ信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます)を開設いたします。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の「三菱UFJ信託銀行株式会社 TEL:0120-232-711(通話料無料)」までお願いいたします。

■ホームページのご紹介

当社のホームページでは、グループのニュース、プレスリリース、企業情報及び財務情報など、グループの事業活動や最新動向についてご紹介しています。

 <http://info.dwango.co.jp/ir/>

 携帯電話からもアクセスいただけます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話からは右のQRコードからもアクセスいただけます。



■IRメールニュース

株主・投資家等の皆様に当社のIR関連の最新情報をメールでお知らせするサービスです。

パソコンのeメールアドレスをお持ちの方ならどなたでも無料で購読いただけます。ぜひご登録ください。

dwango

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル

TEL:03-3664-5477 FAX:03-3664-5478 E-mail: ir@dwango.co.jp URL: <http://info.dwango.co.jp/ir/>